

# 街で見かける ローマ字と英語

ローマ字と英語、どちらもアルファベットで表記されているため、これらを混同してしまう児童がいるようです。今回は、ローマ字指  
導をする際に配慮すべきポイントをご紹介します。



京都外国語大学教授 森 篤嗣  
1975年、兵庫県生まれ。国立国語研究所准教授、帝塚山大学教授などを経て、現職。国語科教育だけではなく、外国語としての日本語教育の研究にも従事する。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

## ローマ字と英語は異なるもの

学習指導要領では、第三学年でローマ字の読み書きを学習し、その学習を基盤として、コンピュータで文字を入力するなどの操作の習得を行うこととしています。

小学校におけるローマ字の学習では、日本語の音が、原則として子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解させることが重要です。ローマ字は、英語でも使われるアルファベットではありますが、英語そのものとは基本的に異なるものであるといえます。しかし、街に出るとアルファベットは、ローマ字だけではなく英語でもよく使われており、外国語活動が始まる第三学年の児童にとって、その使い分けと混同は気になること

## 実はローマ字より英語のほうがよく見かける

まず、考えてほしいのですが、「MIKE」というアルファベットを見たとき、あなたはどのように頭の中で音声化するでしょうか。おそらくは、英語の人名として「マイク」が先に思い浮かび、ローマ字読みの猫の名前である「ミケ」は出てきにくいのではないのでしょうか。

私たちが「MIKE」を「マイク」と思い浮かべやすいのは、私たちの日常生活においても、ローマ字より英語のほうが触れる頻度が高

## 街の道路標識のローマ字

では、「街の道路標識を写真に撮って集めてみましょう」というのは、ローマ字学習にとって適切でしょうか。実はこの学習方法にも少し問題があります。

左の写真(※1)をご覧ください。本来であれば、長音記号を付けるべきところが、省略されています。これでは、「2チヨメ」「トカイド」になってしまいます。

観光地を中心に交通案内標識を量的に調査している研究(※2)によると、収集したデータの71%が「長音記号なし」になっているとのこと、なんと長音記号がないほうが多いのです。これは、実はコンピュータの入力ルールにも共通することです。子どもたちには、本来のローマ字表記とは異なることを



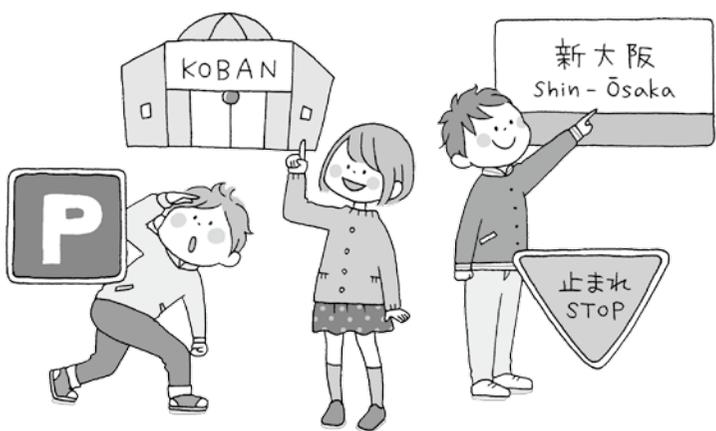
▲※1 街で見かける道路標識の例

## 街で「アルファベット」を探しては

では、どうすればより自然な学習活動になるでしょうか。それは、本連載の趣旨でもある国語科と外国語活動・外国語科の連携が解消してくれるかもしれません。具体的には、街で「ローマ字」を探すのではなく、開き直って「アルファベット」を探してみたいかがでしょうかという提案です。

ローマ字の正確な知識は教室でも学習できます。それよりも、国語科としては、「街のどこでローマ字が使われているか」を学んだほうが効果的ではないでしょうか。社会科にもつながるかもしれません。

そして、集まってきたものをひとまずローマ字として読んでみて、日本語として理解できないことを確認させよう、それが英語や他の言語ということに気づかせます。そのうえで、先ほどの「STOPPU」のように、無理にローマ字に置き換えてみる練習をしてはどうでしょうか。「こんなの見たことない」となれば、ローマ字と英語は違うということが理解でき、外国語活動・外国語科にもつながります。



イラスト：カモ

ローマ字はあくまで日本語の表記法の一つであり、英語とは異なるという「違い」をしつかりと学習することこそ、ローマ字と英語の混同を避けるために役立つのです。

※1：本田弘之・岩田成・倉林秀男(二〇一七)「街の公共サインを点検する」大修館書店  
※2：養山剛秀・矢沢勇(二〇〇四)「ローマ字表記地図および地図記号に関する実態調査作業」国土交通省国土地理院調査研究年報 p.53-54